

がん治療の今

■■■ 1

振管内は、「医療環境が道内でも恵まれた地域」と評される。昨年10月には製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）の「がん診療センター」も完成。西胆振管内の医療資源が一層充実する中、同病院の医師に「がん治療の今」について解説してもらった。（松岡秀宜）

2人に1人はがんと診断される現在。がんは治る時代、がんとともに生きる時代を迎えた。その一方で、「自分が住む地域で、充実した治療を受けたい」とする人も多い。厚生労働省指定のがん診療連携拠点病院や、道指定のがん診療連携指定病院を抱える西胆

2人に1人罹患

今、まさに「がんの時代」といえる。生涯でがん罹患するのは、2人に1人（男性60%、女性45%）であり、1年間に

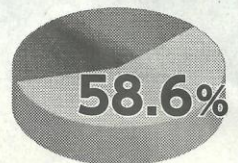
国内、西胆振の現状①

五大がんが全体の6割

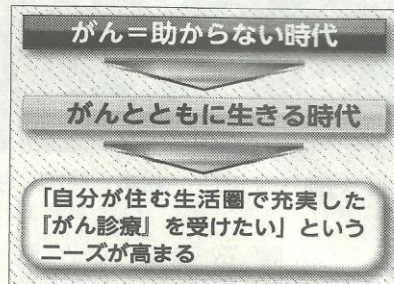
新たにがんと診断される人は、全国で80万人を超えている。また、がんは日本人の死因第1位で、2013年（平成25年）にがんで死亡した人は年間約36万5千人。人口10万人当たり約290人で、年々増え続けている。西胆振管内を見ても、毎年約1800人が新たに

男性では肺、胃、大腸、肝臓、膵臓の順に、女性では大腸、肺、胃、膵臓、乳房の順になる。人口の高齢化とともに、がんの罹患率、死者数は年々増加しているが、医療の進歩によって5年相対生存率（がんと診断された場合、治療でどのくらい生命を救えるかを示す

【5年相対生存率】



※製鉄記念病院・前田副院長調べ（国立がんセンター集計の最新データ）



がんで亡くなるといわれていたが、最新データでは5人に1人（男性26%、女性16%）の割合まで減っている。

つまり、「がん=助からない」といった時代ではなく、まさに、「がんとともに生きる」時代である。厚生省のデータによると、がん患者で、治療を受けながら働いている人は全国で32万5千人いると推計されている。がんは「医療の問題」ととどまらず、がんと付き合いつつ、いかに生活

していくかーといった「社会の問題」ともいえる。国立がんセンター集計の最新データでも、5年相対生存率は約6割（58・6%）まで上昇しており、以前は3人に1人が

「医療整備」最多
 内閣府が昨年11月に実施した「がん対策に関する世論調査」によると、国内のがん対策で一番多い要望は「がん診療に関する医療機関の整備」で、64・9%を占めた。この結果からも、「自分の住んでいる身近な生活圏の充実したがん診療施設・体制のなかで、診断・治療を受けたい」というニーズが非常に強いということも読み取れる。

このような時代。私たちが住む西胆振管内は、果たして、がんになっても安心して暮らせるマチか。がんの基本的治療法である手術、放射線、薬剤、緩和など、地域のがん治療の現状はどうなっているのか。最新のがん治療にはどのようなものがあるのか。……

製鉄記念室蘭病院・前田征洋副院長

「この地域のがん医療の向上に役立つように」との願いを込めながら、各分野の専門医らが五大がんを中心に、それぞれの視点で概説したい。